

# の軌跡

かつては「行方野」と呼ばれた荒涼とした原野であった矢吹が原。  
明治時代には宮内庁の御猟場として、戦中は陸軍の飛行場として使用されながら、  
いつの時代にも、その水利の悪さが大きな課題となっていました。  
その後、国営開墾事業の開始と羽鳥ダム completionにより、乾いた原野は  
現在の肥沃な田園地帯へと生まれ変わりました。矢吹が原の軌跡は  
さまざまな困難を乗り越え、発展を遂げてきた矢吹町の歴史そのものなのです。

